

子どもたちの明日

Children, Our Future

2018年8月

124号

目次

- ・カンボジア出張報告 1頁
- ・カンボジアの子どもたちの未来を
カンボジアの大人たちが切り拓い
てゆくために 2頁
- ・ブラサートの「村の幼稚園」が自主
運営になって2年がたちました 3頁

1

カンボジア出張報告

シスター廣戸より「幼い難民を考える会（CYR）」の代表理事をお引き受けし、まずは、視察をと6月中旬カンボジアに行き参りました。

現地は、丁度雨季に入ったところで、毎日のようにスコールが短時間降りましたが、Caring for Young Khmer（CYK）の案内でプノンペンより車で2~3時間走った農村の幼稚園、市内の在カンボジア日本大使館、カンボジア政府教育省幼児教育局、カンボジア日本人商工会及び多大なご協力を頂いており、私の出身会社でもある三菱商事プノンペン支店をそれぞれ訪問し、カンボジアの政治経済状況など見聞することができ、大変勉強になりました。

村の幼稚園は、私の想像を超えて、施設は最低限整っていて清潔にメンテナンスされています。先生も訪れた村の幼稚園の各場所ともに熱心で、定期的にモニタリングを行っているCYKの指導の賜物と理解しました。

子どもたちの健康状態も良好で、清潔



スダウカンラエンプラム村の幼稚園

と見受けましたが、何より、3~5歳の子どもたちが、可愛く、クメール語が話せたら、どんなに楽しめたかと残念でした。プレイチュロウ村の子どもたちが、休み時間に木登りをして遊んでいるのを微笑ましく見学していましたが、何と私のお土産にとマンゴーを取ってくれていて感激。

教育省幼児教育局局長よりカンボジアの幼児教育方針の現状をお聞きし日本大使館、商工会議所、三菱商事所長との面談より、同国が急速な経済発展をしている反面で、幼児教育に対する政府の予算の不足やプノンペンと農村部、貧富の格差が大きく広がっているのが感じられました。

印象的であった事は何よりカンボジアの人たちは、明るくて屈託ないこと。反面のんびりとしていることは否めません。途上国特有の現象ですが、カンボジアにおいても中国資本の経済進出は著しく中国資本にのまれない事を願っています。

CYR/CYKは当組織の基本方針である保育、教育を再認識して、子どもたちが

より良い教育を受けられるお手伝いを続けていくべき責任を改めて強く意識させられた一週間でした。

代表理事 牛場輝夫

(上) クランリヴ村の幼稚園
(下) スダウカンラエンプラム幼稚園



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

2 カンボジアの子どもたちの未来をカンボジアの大人たちが切り拓いてゆくために

設立から一貫して、カンボジアの子どもたちを「支援する」のではなく、「考える」ことを活動理念としているCYR。この理念は、2011年以降「村の幼稚園」という姿をとって、カンボジアの村々に展開されています。各地域の実情に見合った園舎で、村の運営委員会が選んだ保育スタッフが、わかりやすい教材を使いながら、子どもたちが幼児期に必要な内容を身につけて小学校にあがれるような保育を行っています。

「村の幼稚園」に至る道のりを、副代表の山極理事に聞きました。

質のよい幼児教育をしようとする、どうしても対象児童の人数が限られてしまいます。CYRの活動は支援者からのご寄付に支えられています。その資金を、ひと握りの子どものために使うより、なるべく多くの子どもたちのために活用すべきではないか。これが、2000年に、私がカンボジアで保育活動に本格的に取り組み始めた時の実感でした。時期を同じくして、カンボジア政府が幼児教育に関する初めての国家政策を発表し、ひとりでも多くのこどもに教育の機会を提供する方

針を打ち出しました。行政からの要請を受け、CYRも実態調査に協力しました。

子どもの健全な発育と教育環境の充実にむけた課題が山積していることが明らかになる中、CYRは、建物があり保育者がいる既存の「公立幼稚園」を対象に、教育省や州・郡・地区の教育担当者ら組織の力を借りながら、保育者がやる気を出して子どもと関わる環境づくりを支援することに集中しました。具体的には、カンダール州内の公立幼稚園を州の担当者にも同行してもらって巡回し、保育研修、カリキュラムワークショップ、教材作りワークショップ、保育トレーナー育成等を行ったのです。一度訪ねて方法を紹介するだけでなく、繰り返し訪問し、どう実践されているか、実践されていないとしたら何が障害になっているか等、州担当者とのフォローアップを徹底しました。こうしたやりとりを通して、CYRの職員が指導するだけでなく、他の保育者のやり方を見聞きすることがとても参考になることもわかってきました。保育者の人たちが他の幼稚園のクラスを見学したり、合同研修会を開催してお互いにやっている

ことを情報交換する機会も設けました。

また、教材と遊具の標準セットを配布し、それらの有効な使い方を紹介することにも力をいれました。カンボジアは、家庭にも幼稚園にも遊具がありません。保護者も保育者も遊具で遊んだ経験がないので、遊び方を知りません。CYRでは、難民キャンプに開設した「希望の家」の頃から、絵本やパズルといった感覚を使って楽しむ遊具、シーソーや滑り台といった外で身体を動かしながら楽しむ遊具を活用してきました。日本の子どもたちが遊ぶ遊具からヒントを得て、カンボジア国内で製作できて長持ちする遊具の試作を重ね、カンボジアの子どもに親しまれる遊具を厳選。これらの遊具と教材で標準セットをつくって幼稚園に届け、保育者に目的と使い方を教えました。ここでも、フォローアップを入念に行いました。少し期間をあけて再訪した幼稚園で、どの教材が活用されているか、壊れたり紛失した教材はないか、子どもの学習に効果的な使い方を続けているか、等を確認し、使い方の復習をしたり、使い勝手のよくない遊具の再検討を行いました。当初懸念された教材の紛失も少なく、遊具は修理

しながら大切に使用されていました。

4年間にわたる巡回支援の結果、カンダール州では子どもを公立幼稚園に通わせたい保護者が増えました。これは、幼稚園で楽しく遊びながら成長してゆく子どもの姿を、親たちが見逃さなかったからです。子どもたちが幼稚園に行きたいと切望する環境づくりを、保育者や保護者が熱心に考え、村のキーパーソンや行政の担当者を巻き込んで整えてゆく。その上で、ここが最も難しく且つ重要なことですが、CYRが関与せずとも、地域の人たちが幼稚園を運営し続けていけることを目指します。運営が維持できなくなる原因は、資金難と子どもを幼稚園に通わせたいというモチベーションの低下です。資金難に対しては、保護者からの協力を積み立てたり、寄付や公的予

算の申請等で対応します。一方、モチベーションの維持に必要なのは、ニワトリとたまごではありますが、幼稚園が健全に継続運営されることです。そこに通う子どもたちの成長ぶりや幸せそうな様子が村の中で見慣れた光景となり、卒業生や幼稚園に子どもを通わせている親だけでなく、コミュニティ全体に幼稚園の存在価値が共通認識として根付くことです。CYRが1992年に保育所を開設したプレイタウ村や1994年に開設したバンキアン村では子どもたちを幼稚園に通わせることがコミュニティの常識になりました。幼稚園の日課を維持するために、保護者がお金やお米を持ち寄り、村のクリニックが調味料を寄付するなどで給食も続けていたりします。

今年3月までで、合計11ヶ所の

「村の幼稚園」がCYRから独立し、自分たちで歩き始めました。元「村の幼稚園」が、カンボジアのあちこちで子どもたちの明るい毎日の礎となることを願ってやみません。

カンダール州の公立幼稚園の先生たちにライムを使った数を教える研修（2005年1月）



3 プラサートの「村の幼稚園」が自主運営になって2年がたちました

2011年にCYRが半日保育を開始したプラサート村の幼稚園は、5年間、直接支援を行い、2016年3月に地域での自主運営に移行しました。実はこの幼稚園、新規開設ではなく、長年閉鎖されていた幼稚園を再開したのでした。最初の運営主体であった国際NGOは、10年ほど保育活動を支援したのち、幼稚園を地域に委ねました。しかし、保育者の給与が支払われず、幼稚園は閉鎖されてしまったのです。2011年にあらためてCYRが呼びかけたところ、以前にも子どもたちを教えていた保育者2名が、応えてくれました。再開した幼稚園で、3・4歳児のクラスと5歳児のクラスを受け持っています。プラサートは閉鎖という過去をもちながら、一番最初に自主運営に移行した、CYRの「村の幼稚園」自立後の存続可能性を占う指標となる幼稚園です。行政や地域のコミットメントをとりつけ、貯金をためて自主運営に移行して2年が経過。どうなっているで

しょうか？この6月、プノンペン事務所長のチャン・スレイが久しぶりに2人の保育者に会ってきました。兩名とも元気に子どもたちを教えています。いくつかCYRが直接支援していた頃とは状況が変化したところもあるようです。

ひとつは、幼稚園に通う期間です。CYRの「村の幼稚園」は、仕事に出かける親たちのために、一年を通して、運営しています。幼稚園が地域の自主運営に移行すると、まず、子どもたちが通える期間が9ヶ月に減ります。地区の予算では、保育者の給与は9ヶ月分と決まっているからです。幼稚園が休みになるのは稲作の繁忙期ですが、この8月から10月の3ヶ月は、幼稚園の先生も稲作農家の手伝いで生活しています。

幼稚園が休みになると、子どもたちの生活は、栄養と衛生の両面で、悪くなります。親は朝早くから働きにでるので、子どもたちに食べさせたり、水

浴びをさせる時間がとれません。服も洗濯しないので、臭います。以前は、農作業に従事する親が大半で、太陽が照りつける午後、大人も畑から引上げてきていました。現在は8割以上の親が工場で一日中働いているため、子どもたちは大人がいない家で1日中、大きい子が小さい子の面倒を見ながら過ごします。具合が悪い子がいても、助けてくれる大人が周囲にはいません。幼稚園に通うことは、学習だけでなく、子どもたちを様々な危険や悪条件から守る意味合いもあるのです。

2010年、長年閉鎖されていた幼稚園の元教室を下見しました。



カンダール州の保育者に布ボールの遊び方を指導する。(2006年8月)



カンダール州の幼稚園で布ボールで遊ぶ子どもたち(2007年5月)



もう一つの変化は、幼稚園のカリキュラムです。最初の3年間、子どもたちが経験する「村の幼稚園」のカリキュラムをご紹介します。

- 7:00 屋外で国家斉唱、運動
- 7:30 出席確認、正しい習慣を学ぶ
- 7:50 本の読み聞かせ、文字や数字の練習、自然観察
- 8:20 手洗い指導、お菓子・豆乳の配布、自由遊び、休憩
- 8:40 歌の練習、詩・なぞなど、実験、お絵かき・ぬり絵
- 9:10 教材遊び、工作、折り紙、絵本を楽しむ、自由遊び
- 9:40 授業の復習、衛生教育（服装チェック、手洗い指導）、歌を楽しむ
- 10:00 帰宅



2013年、手入れをした教室で子どもたちはしっかり学んでいます。

月曜日から金曜日、午前7時～10時（1日3時間）、このカリキュラムにそって、子どもたちは遊び、そして、学びます。

しかし、4年目に入り、幼稚園の運営が村の運営委員会に移行した段階で、公立地域幼稚園のカリキュラムにそって、子どもたちが幼稚園で学ぶ時間は午前7時～9時30分（1日2時間半）に短縮されます。これにより、子どもたちが集団生活を送りながら学ぶ時間は、年間4割近く減少してしまいます。プラサートの幼稚園もカリキュラムを公立地域幼稚園の内容に合わせましたが、そこには

入っていない手洗い指導だけは、金曜日の空き時間に続けています。

幼稚園に通う時間が少なくなったとはいえ、子どもたちに教育を受けさせることに対する親たちや地区の関心が薄れたわけではありません。5歳になるのを待たずに、子どもを幼稚園に通わせ、前倒しで小学校に進学させる家庭もあります。小学校側も、幼稚園で学んだ子どもたちは小学校の勉強がよくできるので、ひと足早い入学でも歓迎します。こうした事情もあり、プラサートの幼稚園では、5歳児は少なく、4歳、3歳の子どもたちが多く学んでいます。

プラサートのふたりの保育者は、ベテランですし、子どもたちに教えることにやりがいを感じて、予算が少ない中、自分たちのお金で教材を作ったり、教室の飾りをつけたりしています。こうした、意欲のある保育者が長く続けられるために、公立小学校附属幼稚園に認定され、国家予算がつくことが重要です。5月には担当官がクラスの様子を視察にきました。次号のニュースレターでは、プラサートの幼稚園が公立小学校附属幼稚園に認定されたというご報告ができることを期待しています。

CYR 情報

2019年カレンダー「カンボジアの子どもたち」

今年も、撮影 高橋智史氏、レイアウト 熊谷正氏のご協力でカレンダーを製作中です。2019年をカンボジアの子どもたちの笑顔とともに、過ごしてみませんか。

カレンダーの販売開始は9月上旬を予定していますが、ご予約も受け付けております。

価格 1冊 800円(送料 1冊 180円、2冊以上は送料無料)

グレゴリオ聖歌によるクリスマス夜半のミサ “幼い難民を考える会”のために

主催 CANTATE DOMINO

後援 JCDA 日本合唱指揮者協会

日時 2018年12月20日(木) 18時より

場所 聖心女子大学聖堂 渋谷区広尾 4-3-1

地下鉄日比谷線 広尾駅4番出口 徒歩5分

※どなたでもご参加いただけます。

子どもたちの明日 124号

発行日：2018年8月8日 発行者：牛場 輝夫

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: <http://www.cyr.or.jp/>

プノンペン事務所 (CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 210849

FAX: (+855) 23 210849

Email: info@cyk.org.kh

URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

幼い難民を考える会 (CYR) は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。